

特別連続講義 「チェルノブイリ後のロシア語から 3.11 後の日本／日本語を考える」
第 2 回： チェルノブイリ後のロシア語 (1) 「チェルノブイリ法」とは

講師：尾松亮氏（作家）

日時：5 月 23 日（木）17：30～19：00 （終了後、懇親会を予定しています）

場所：東京大学文学部スラブ文学演習室

本郷キャンパス 文学部 3 号館 7 階 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

（丸ノ内線・大江戸線「本郷三丁目」、千代田線「根津」、南北線「東大前」各駅より徒歩約 10 分）

* 東大構内案内図 https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_05_03_j.html

* **予約不要・参加自由。** 関心をお持ちの皆様のご来聴を歓迎します。

連続 4 回の講義を予定しています。単独回の参加も可能です。

講義内でロシア語テキストも扱いますが、ロシア語の知識は必須ではありません。

第 2 回の講義では、ロシア語がわかる方を対象に、事前にロシア語テキスト（『チェルノブイリ法』抜粋）をお配りし、訳文を持ち寄って検討します。PDF でお送りしますので、下記までご連絡ください。

【講師プロフィール】

尾松亮（おまつりょう）。1978 年生まれ。作家。

東京大学大学院人文社会研究科修士課程修了。2004～07 年、文部科学省長期留学生派遣制度により、モスクワ大学文学部大学院に留学。その後、日本企業のロシア進出に関わるコンサルティング、ロシア・C I S 地域の調査に携わる。11 年～12 年「子ども・被災者生活支援法」（2012 年 6 月成立）の策定に向けたワーキングチームに有識者として参加、立法提言に取り組む。

主な著書：『3・11 とチェルノブイリ法—再建への知恵を受け継ぐ』（東洋書店新社）、『チェルノブイリという経験—フクシマに何を問うのか』（岩波書店）、『原発事故 国家はどう責任を負ったか—ウクライナとチェルノブイリ法』（東洋書店新社、共著）、『原発避難白書』（人文書院、共著）、『フクシマ 6 年後消されゆく被害—歪められたチェルノブイリ・データ』（人文書院、共著）

【各回の内容】

第 1 回 フクシマ以後の日本語はどこがおかしいか （終了）

第 2 回 チェルノブイリ後のロシア語 (1) 「チェルノブイリ法」とは

第 3 回 チェルノブイリ後のロシア語 (2) アレクシエヴィチ『チェルノブイリの祈り』を読む

第 4 回 「その後の世界」を日本語でいかに語るか

使用テキスト（予定）

- 尾松亮『3・11 とチェルノブイリ法—再建への知恵を受け継ぐ』（東洋書店新社）
- スベトラーナ・アレクシエービッチ『チェルノブイリの祈り』（岩波現代文庫）
- 川上弘美『神様 2011』（講談社）
- チェルノブイリ支援運動九州編『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた～子どもたちのチェルノブイリ』（梓書院） *ベラルーシの子どもたちの作文集。

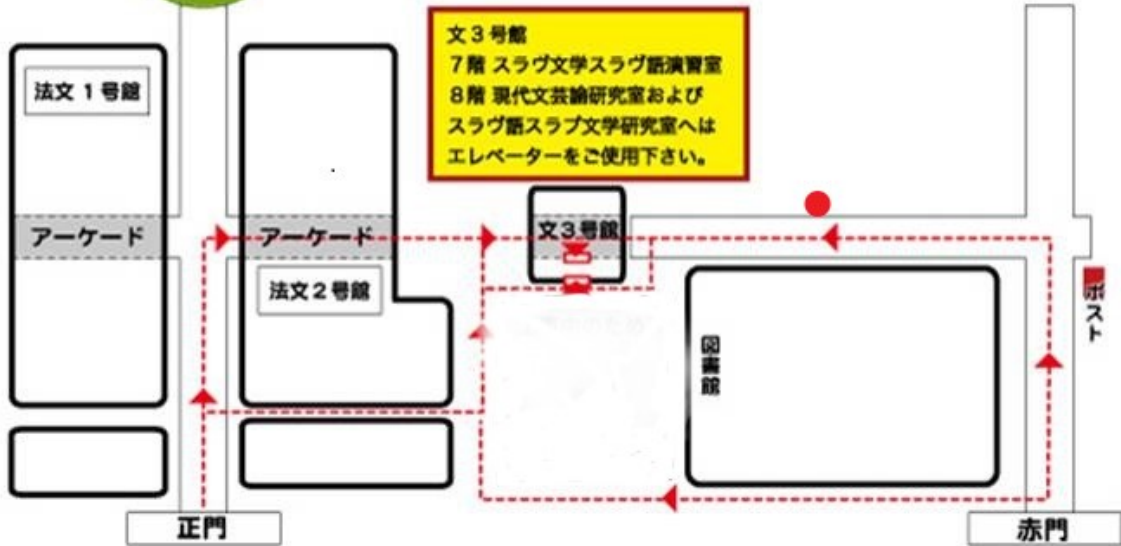
*チェルノブイリ法とアレクシエーヴィチの著書については、ロシア語原文の部分コピーを配布します。

和書についてはできれば事前に読んできてください。

★ 問い合わせ先：東大文学部スラブ語スラブ文学研究室 Email: slav.lecture@gmail.com

安田講堂

広場



文3号館
7階 スラヴ文学スラヴ語演習室
8階 現代文芸論研究室および
スラヴ語スラヴ文学研究室へは
エレベーターをご使用下さい。

文3号館

図書館

ポスト

正門

赤門

本郷通り

至 本郷三丁目→